

ME-BYO 未来 戦略ビジョン

— 「スマイル 100 歳社会」の実現に向けた総力の結集 —

平成 29 年 10 月 21 日

ME-BYOサミット神奈川実行委員会

日本は、現在、人類がかつて経験したことのない「超高齢社会」を世界に先駆けて迎えています。

超高齢社会は、グローバルな課題になっており、今後、日本がどのように対応していくか世界中の注目が集まっています。

今の時代を生きる私たちが、しっかりと未来に向けた行動を起こし、持続可能な新たな社会システムを創り出すことで、次の世代に明るい未来をもたらしていくことができるはずです。

私たちは、2年前、ここ神奈川・箱根の地で、未病の考え方を基軸とした新たなヘルスケア社会システムのあり方について議論を行い、「未病サミット神奈川宣言」をとりまとめ、具体的な取組みを進めてきました。そこで提唱された「未病コンセプト」は、本年2月、国の「健康・医療戦略」にも盛り込まれ、社会のあり方を変えようとするところまで広がってきました。

まさに、今こそ、私たち一人ひとりはもちろん、企業、アカデミア、行政をはじめとした多様な主体が、それぞれの役割をしっかりと考え、具体的な行動を起こしていくときです。

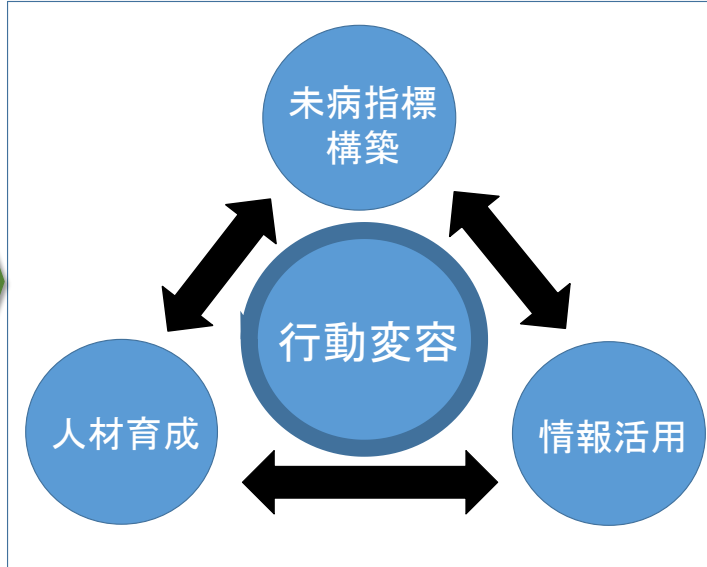
私たちは、再びこの神奈川・箱根の地に集い、これまでの2年間の取組みの進展を踏まえ、100歳になっても健康で生きがいと笑顔あふれる健康長寿社会（「スマイル100歳社会」）を2025年の目指すべき未来社会に位置づけ、エビデンスに基づき、個人の行動変容を促す「未病指標」のあり方や未病改善を支える社会システムについて議論を行いました。

そして、各プレイヤーの役割と行動目標を定め、共通の認識を持って行動していくための戦略ビジョンをとりまとめ、実行していくことを確認しました。

持続可能な新たな社会システムの創出

2025年 目指すべき未来社会

バックキャスト



行動目標

個人

企業

専門家

アカデミア

自治体

国

国際機関

1 目指すべき未来社会

いわゆる団塊の世代が 75 歳以上の後期高齢者となることに伴う「2025 年問題」が迫ってきています。超高齢社会の課題が一気に顕在化し、現在の社会システムを据え置いたままでは、医療や介護などの基幹的制度の崩壊が危惧されます。

未来社会を、現在の社会システムを据え置いた場合の「懸念される未来」と、新たな社会システムを創出した場合の「あるべき未来」の 2 つに分けて描いてみました。

私たちは、この「あるべき未来」を「目指すべき未来社会」として行動していかなければなりません。

(1) 懸念される未来

- 2025 年には高齢化率が 30.3%となり、高齢者の虚弱化や認知症が増加。社会保障費は 2012 年比で 1.4 倍(約 150 兆円)に膨らむと予測
- 生産年齢人口の減少により、消費市場も縮小。生産年齢人口の負担が増加し、財政破綻リスクが高まる。
- 労働力不足による過剰労働が顕在化し、食生活等を主因とした生活習慣病や過剰労働等のワークスタイルによる精神疾患が増加
- 地域コミュニティが崩壊し、地域社会から孤立した高齢者が増え、引きこもりによる孤独死も増加

(2) あるべき未来 (2025 年の目指すべき未来社会)

- すべての世代が元気で自立したライフスタイルを実践し、100 歳になっても健康で生きがいと笑顔あふれる健康長寿社会(「スマイル 100 歳社会」)

ライフステージの転換

高齢者という概念(年齢による区分)が変わり、生涯にわたる学びと社会参加を通じてアクティブな人生を送ることができる。

個人・生活の場が主役に

未病の状態や将来の疾病リスクなどが見える化でき、専門家や行政のサポートのもとで、個人が未病改善に向けたサービス等を主体的に選択している。

切れ目ないサービスの提供

健康・医療情報等の活用により、生涯を通じて切れ目のない医療・介護・健康づくりサービス等を受けられる。

最先端の医療や技術が身近に

最先端の高度な医療や技術が身近になり、気軽に活用でき、自立した生活機能の確保に役立つことで、健康生活の質の向上につながっている。

生活の利便性の向上

IoT、AI、ロボットなどの技術革新により、人口減少の中で不足する労働力が補われることで、支える世代の負担も軽減され、生活全体の利便性も高まっている。

2 新たな社会システムの創出に向けて

2025年の目指すべき未来社会を実現するためには、既存のシステムに加えて、健康行動がコストではなく、未来への投資との考え方を基本に、専門家や行政のサポートを受けながら、個人が日常生活の中で多様な商品・サービスを主体的に選択して未病を改善する、行動変容を支える持続可能な新たな「未病改善システム」を構築する必要があります。そのためには、個人、企業、専門家、アカデミア、自治体、国、国際機関など、多様な主体が一体となって行動していかなければなりません。

そこで、そのために必要な取組みを特に重要な4つの視点から検討しました。

2025年の目指すべき未来社会に向けた4つの視点

【視点1：未病指標構築】

- 未病の状態や将来の疾病リスクを個人レベルで見える化する「未病指標」の構築や、未病に関わる商品・サービスの安全性を担保し有効性を明らかにする仕組みづくり

【視点2：人材育成】

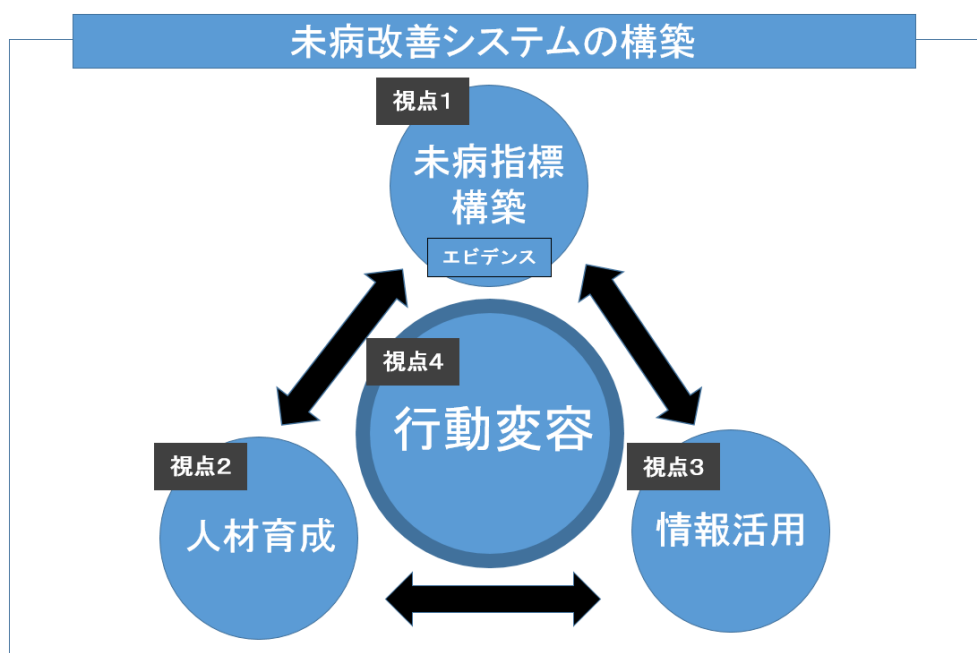
- 未病指標の活用など、個人の適切な支援につながる学問体系を確立し、地域における健康づくりやヘルスイノベーションのリーダーとなる人材の育成

【視点3：情報活用】

- IoTやAIを活用し未病指標を実装した商品・サービスの開発促進に向け、情報をビッグデータとして利用する仕組みの構築

【視点4：行動変容】

- 個人が未病指標などを利用して主体的に未病改善を実践する仕組みづくりや、健康に関するリテラシーを高め継続的な取組みを促すインセンティブの検討



3 プレーヤーの役割と行動目標

未病改善システムの構築に向けて、それぞれの主体（プレーヤー）が自分ごとと認識し、取り組んでいくべき役割と行動目標を整理しました。

個人

健康に関するリテラシーの向上と主体的な未病改善の実践

（行動目標）

- ・健康に関するリテラシーを高め、未病指標を実装した商品・サービスを活用して主体的に未病を改善
- ・人生100歳時代を見据えて、社会参加を含めたライフデザインを実践

企業

商品・サービスの質と企業マインドの向上

（行動目標）

- ・未病指標を実装した様々な商品・サービスを開発し、安全性を担保し有効性を明らかにして、個人のライフステージのニーズに応じて提供
- ・生産性と健康満足度を向上させる健康経営を進め、従業員やその家族の未病改善やライフデザインの実践を支援

専門家（医療関係者等）

専門的知識で個人をサポート

（行動目標）

- ・企業の商品やサービスの活用も含め、個人に身近なアドバイザーとして、未病指標に基づいて、生活全般にわたり幅広く関与し、指導

アカデミア

イノベーションの創出と次世代の担い手づくり

（行動目標）

- ・未病指標の構築や社会を変革する様々なイノベーションを持続的に創出するための研究を深化
- ・次世代を担う人材育成プログラムを構築し、地域における健康づくりやヘルスイノベーションのリーダーとなる人材を輩出

自治体

個人の未病改善をサポートする環境の整備

（行動目標）

- ・住民が地域の中で未病指標を活用して自然と未病改善の取組に参加できる場づくり
- ・企業等の商品・サービスの積極的活用により個人に最適な未病改善メニューを提供

(行動目標)

- ・個人の行動変容を促進するインセンティブを組み込んだ保険制度改革の推進、ビッグデータの積極的活用に向けた環境整備などを通じて持続的な社会システムを構築
- ・技術や商品・サービスの開発の促進に向けて、国家戦略特区やサンドボックス制度などの規制緩和を推進

(行動目標)

- ・国際社会で活躍する人材の育成を支援し、未病に関する取組を積極的に情報発信
- ・未病指標の国際標準化に向けたエビデンス研究と社会実装の促進

4 神奈川県になすべきこと

神奈川県は、「スマイル100歳社会」の実現に向け、新たな仕組みづくりをリードするとともに、このビジョンを実現するためのエンジンとして、以下の取組を進めます。

(取組の方向性)

- 目指すべき未来社会の実現に向けた県としての戦略の策定
- 各プレイヤーに対する働きかけと連携の強化

(具体的な手法)

- ・県のネットワークの活用による未病指標の構築
- ・新たな商品等の開発促進に向けたネットワークの強化
- ・地域（市町村）や職域（企業等）に最適な商品・サービスを導入するためのリビングラボなどの仕組みづくり
- ・ライフデザインの実践を促進する情報基盤の構築
- ・未病コンセプト及び未病産業の国際展開に向けたグローバルな連携の促進
- ・次世代を担う人材の育成やシンクタンク機能を担う教育機関の設置・運営